

第 66 回・歴史教育者協議会全国大会（東京）レポート  
第 2 1 分科会（障がい児教育）

レポート名：「肢体不自由校（高等部）における買い物学習の取り組み」  
—重度障がい児にとっての社会体験とは—

日時：2014年7月31日（金）～8月2日（日）

場所：明治大学中野キャンパス



報

告者：竹下 忠彦  
東京都立府中けやきの森学園  
（東京歴教協・町田支部）

## (1) 本レポートの目的

本校は、東京都多摩地域にある知・肢併置校である。本実践はこのうち肢体不自由部門の高等部における実践である。高等部（肢体不自由部門）には、3つの学習グループ（3つの教育課程）がありそれぞれに教育実践が行われているが、このうち重度障がい児グループ（高等部Cグループ＝自立活動中心の課程）の2014年2月時の買い物学習（総合的な学習の時間）をどのように行ったかを報告する。

行き先は、地域にある東京外国語大学の生協売店である。

レポートの立場は買い物学習の担当責任者である。担当者としてどう事前指導し当日の買い物学習までもっていったかを中心にレポートを報告する。

高等部の障がいの重い生徒たちにとって、買い物学習の意味は何だろう。この年齢になると、買い物の経験は家庭でもある程度して全く新しい体験ではない。買い物学習に高等部生らしい意味づけができないか、それがレポートにとって一番の課題である。

レポートは事前学習に力を入れた。3回の事前学習を「生徒たちが期待感を膨らますこと」、「何を買いに行くか意識すること」、に重点をおいてみた。高等部のこのグループの生徒たちにとって、買い物先に期待を持ちながら外出し→何を買ってくるかを意識し→買い物という行為（店員さんとのやりとり）をするという体験は、今後の卒業後の生活を考えると重要ではないかと考えた。

外出先での買い物について、それぞれの生徒なりに主体的に関わることができることができたか、この分科会参加のみなさんと共に考えたい。

## (2) 高等部Cグループの生徒たちの実態

Cグループは、10名の生徒で構成されている。それに対し教員7名で指導する体制である。生徒たちの実態は以下のようである。

〈健康・身体面〉

### (①歩行、姿勢面)

- ・一人で立位がとれ歩行可能な生徒が1名、
- ・介助者による介助があればどうにか立位がとれ歩行可能な生徒1名、
- ・介助があっても、立位が難しい生徒：8名
- ・授業30～50分程度なら車いすに座っていることが可能な生徒6名  
(ただし、いす座位の姿勢の取り方には配慮が必要である。)

授業中は基本的に臥位で過ごす生徒：4名

### (②手指の動き)

- ・手を目的的に動かせる生徒9名。（教員の援助があれば目的的に動かせる生徒も含む）
- ・手のひらに過敏がない生徒と、過敏の傾向が残っている生徒がいる。

〈認識・コミュニケーション面〉（社会性も含む）

- ・授業の全体の状況を、見、聞きすることにより何をしているかおおよそ把握できる生徒から、目の前に提示された物について教員の言葉かけにより見る（意識する）ことができる生徒までいて、認識する力に幅がある。
- ・手元にある物を見る力に幅がある。教員による言葉かけにより、促す必要がある。
- ・授業のMTの話に注意（意識）を向けることができる生徒から、注意を向けるため近くで援助が必要な生徒までいる。
- ・日常生活動作について、簡単な言葉かけにより理解し反応する生徒から、言葉+身振り+状況によって理解反応する生徒までいる。
- ・周りにいる人や集団の規模の違いによって、持っている力が発揮できる時、できない時がある。信頼できる大人の支援の元で、実力を発揮できる生徒たちである。
- ・授業の内容について、3～4回繰り返すと簡単な見通しがもてる。
- ・スイッチ操作等について、動作→結果を理解している生徒とそこまで達していない生徒がいる。
- ・一緒にいる友だちを意識することができ、友だちに手を出したり、友だちの動作を見たりすることができる生徒と、友だちにまだ関心の持てない生徒がいる。

（コミュニケーションの力）

- ・全員が、身近な大人からの問いかけに対し、手をあげる、手指を動かす、声を出す、表情などの本人なりの安定した方法で、応答することができる。
- ・人との関わりを求める力、共感を求める力、要求を明確な方法で伝える力が育ってきており、それらの力を充実させるのが課題の生徒たちである。
- ・全員が、本人なりのYES・NO、快・不快、要求の意思表示の方法を持っている（声、表情、手や体の動きなど）が、その意思表示の仕方がまだ弱い生徒もいる。また全員がNOの意思表示の力が弱い。

★保護者の買い物学習に対する姿勢

- ・買い物学習など外出行事は、積極的に行ってほしい。
- ・買い物学習の準備に、積極的に協力する。

**（3）生徒の実態を見て、どう準備しようとしたか。**

以上の様な実態から、買い物学習にどこに行くかをおおよそつかむ、当日に対する期待を高める、何を買いに行くかを意識するやりとりを行うという「ねらい」を持ち、3回の事前学習の計画を立てた。（当初は4～5回を予定していたが、日程的な問題から3回しかできなかった。）

→\* 3回の事前学習指導（案）参照

3回とも同じ展開で授業を行い、その回により焦点にあてる事柄を少しずつ変化させた。

#### (4) 事前指導での生徒たちの様子

授業の流れ

- ・大画面を見ながらの買い物学習の説明
- ・テーマ曲を歌う。→\*資料参照
- ・買い物の練習（やりとり）
- ・「しおり」作り →\*しおり参照

#### (5) 買い物当日の様子

当日（2月5日）は、天気もよく冬にしては、外出がしやすい気候だった。10名の生徒を一度に買い物で引率するのは難しいというグループ会での判断から、午前班・午後班の2つに分かれて実施した。→\*実施案参照

- ・往復の道での様子
- ・生協の売店での様子
- ・帰ってきての教室で：買ってきたものを披露した。

NYさん

買い物学習は、選んだ品物を入れたかごをしっかりと持ち、レジに渡すことができました。

OSくん

大学生協売店に行き、家族に頼まれたお菓子等を購入しました。会計レジでは、店員さんを見て商品をうけとることができました。

AIさん

買い物学習では、売店で自分の買う品物を見つけた時に、「これだ！」という表情が出て、一緒に確認することができました。

YH君

買い物学習では、売店までの道のりや店内を歩いて行くことが出来ました。店内では買い物かごを持ち続け、言葉での指示だけでレジのテーブルに載せることができました。

HYくん

買い物学習では、写真カードを見ながら商品を探しました。いろいろな品物と見比べながら、目的の物を選ぶことができました。

KSくん

買い物学習では、写真カードを見ながら商品を探しました。品物をよく見て正しく選ぶことができました。

## (6) 事後学習について

- ・ 買い物学習のしおりに当日の写真をはり、振り返りの学習を行った。
- ・ テーマ曲を歌い、買い物学習を思い出した。
- ・ 写真を見ながら自分が何を買ってきたか、当日の様子を発表した。

## (7) まとめ

生徒たちの当日の大学生協売店での買い物の様子を見てみると、高等部の生徒は生活経験も多く、お店での買い物自体には慣れていることがよく分かる。だからこそ、どんな店に行くか、何をどのように買うか、交通手段、目的地までの途中の場所の関連学習をどのように行うかは、重要である。

### 【事前・事後学習での工夫】

- ・ 何を買ってくるか。商品選びについては、Cグループの生徒たちは自分で判断し商品を選ぶことは難しいので、保護者に協力を得て、「家族（父、母、兄弟）に頼まれたものを買ってくる」または「本人の好みのものを保護者と事前に相談し、〇〇を買って来る」とあらかじめ決めておいて、それを買う練習を事前学習で行って本番に臨んだ。
- ・ 会計でのお金の支払いも、「サイフやお金を意識して会計にお金を渡す」ということは、ねらいにならないので、会計の方との「やりとり」（相手を意識しお金をわたし、これくださいと引率教員と一緒に発声する）をする練習を行った。
- ・ 大画面のライドショーで、学校から大学生協売店までの写真を見ていった。
- ・ 事前・事後学習でしおりに写真をはっていったが、写真は、調布飛行場の軽飛行機、大学構内や購入予定の商品の写真を用意した。生徒は、貼る写真に対し関心を向けたり、選んだりすることができる生徒が多かった。
- ・ テーマ曲を2つつくった。ムードを盛り上げること、買い物学習のイメージをつくることをねらった。下見に行っていない教員もこの歌を歌うと、どんな買い物学習になるかイメージを持てるように歌詞を工夫した。